

木協通信

第87号
発行年月日
令和6年1月吉日
日田市大字東有田
字新山2776-6
日田木材協同組合
TEL24-2167

なることを祈念いたしまして、新年のご挨拶にさせていただきます。

★日田木材協同組合百年を語る
明治十年代迄は筑前往還（街道）筑後街道でさえも道幅は狭く、人馬が通るのみであったが、明治二十四年ごろまでには筑前、筑後往還とも道幅が二間に拡幅され、一部では荷車が通ずるようになった。

〔次号へ続く〕

★新年のご挨拶

日田木材協同組合
理事長 瀬戸亨一郎



昨年は4年ぶりに、ほとんどの事業がコロナ前の通常の形に戻って開催できた年でした。組合員の皆様には、いろいろな組合事業にご協力いただきありがとうございました。

まだまだ、ウクライナやガザの戦況は混沌としておりますが、島国の日本は、差し迫った脅威はなく平和を享受できることを改めてありがたいと感じます。ただ、国内政治の不祥事が続き、国内景気に悪い影響を与えないか心配です。

原油や諸経費の上昇は避けて通れないようですし、住宅の建築コストは上昇を続けており、一戸当たりの建築面積の減少が続きます、木材需要の減退の一因になっていると考えられます。特に本年は、物流関連の変化には注意を払う必要があります。なるべく近場での販売やまとめての販売に努めねばなりません。

昨年は、外国人の技能実習に関する対象職種に木材加工、機械製材作業が追加されましたが、人手不足は、さらに大きな問題になってきますし、各地域間・各業界間で人材の取り合いになってきそうです。できることから少しずつ実行し、魅力ある木材業界と思われるよう努めなければなりません。

また、再造林の担い手づくりも一歩前に進んだ年でした。我々の業界も再造林できて初めて持続性があることを忘れてはなりませんし、関心を持ち続けなければなりません。

好材料は、為替の円安傾向や海上輸送の不安定化が当分続き、欧米からの輸入材のコストも上がっております。建築基準法改正前の駆け込み需要もあるかもしれません。また非住宅の木造化も進んでおりますので、なんとかその流れに乗りたいものです。たとえ建築需要は増えなくても、木造率や国産材率を上げるにより、国産材需要を増やすよう努力したいものです。

組合員の皆様にとって、本年が良い年に

★組合視察研修旅行を終えて

総務委員長 横山俊英

今回は、令和5年11月24日（金）から26日（日）にかけて、福島県等で研修や視察を行って参りましたのでご報告します。参加者は組合員16名、職員2名の一行18名で24日6時30分に出発しました。

最初の研修先は、国産材製材工場としては国内最大級である、協和木材株式会社を視察しました。工場の敷地面積は、約23㍓であり広々としていますが、工場内は整理整頓が行き届いていました。従業員は335名で技能実習生はいませんでした。

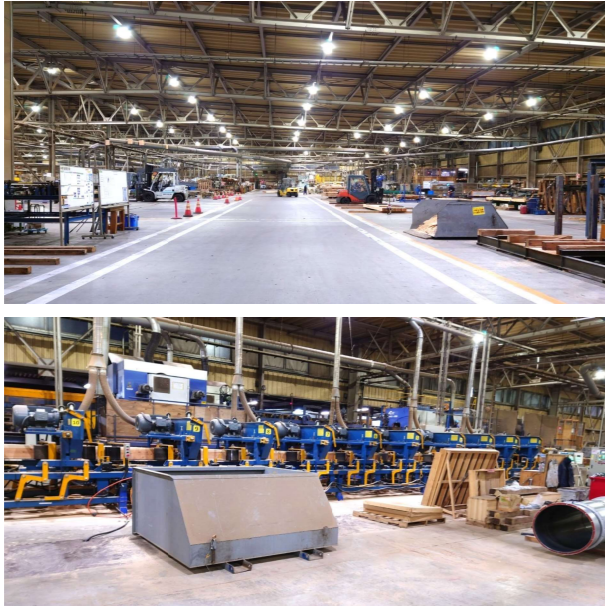
今年で創業70周年だそうです。2018年に輸出用材ラインを新設して、現在の製材量は原木58万m³を消費し、20万m³の製品を製造しているとのことでした。

乾燥機、ボイラー、モルダー等設備も充実していました。以前はフェンス材を米国へ年間18,000m³輸出していたそうですが、中国の影響等もあり、現在は6,000m³に下落しているとのことでした。

価格はFOBで5万円/m³で取引しているとのことでした。当社はスギ材で建築できるよう米国の認定が取得できたとのことであり、今後、米国で建設を計画しているとのことでした。

従業員の確保のため、早くから週休2日制の導入や待遇の改善、やりがいのある職場作りを進めているとのことであり、当方でも参考にしなければと思いました。

25日（土）に郡山地区木材製材協同組合を視察しました。当組合は1996年から国の補助事業を活用して、19億円で建設をしています。従業員は12名で、日田地域の平均的な工場の規模であり、製品の生産量は6千m³です。創業から27年経過していますが、機械はメンテナンスが行き届いていました。



【協和木材株式会社 内部】

原木市場も開設しており、近隣の地域から全量を委託販売しています。年間4〜5万m³のスギ、ヒノキ、カラマツを取り扱っており、スギ中目で1万5千円、カラマツは2万円を超えているそうです。取り扱っている商品は直材が多く、色も綺麗でした。カラマツは以前は用途が限られており、最も安い価格で取引されていたそうですが、集成材の技術ができてからはスギやヒノキより高い価格で販売されているとのことでした。スギ材も今後新しい商品の開発に期待したいと思えました。

次に、森と木の情報・活動ステーション「きとね」を視察しました。

南会津町は日田市と同じように、林業成長産業化推進地域の指定を受け、林業・木材産業の活性化に取り組んでいます。その一環として「きとね」を令和4年に建設し情報発信等の拠点としています。地元スギ材の重ね梁や縦ログによる木造2階建てで、各コンクールで受賞しています。



【TDRテラス宇都宮】

26日（日）に栃木県の「TDRテラス宇都宮」を視察しました。この建物は木と鉄骨のハイブリッド耐火柱や「床版を使用した中層オフィスビルで令和4年9月に竣工しています。今年の第4回目の木造セミナーで、「都市木造ビルの現在」の講義を受けました。その中で、サステナブルの社会の実現のため、地球温暖化防止の取り組みは重要であり、ビルの建設においても、木造化は進んでいくだろうとのことでした。近年はビルも投資等の目的として、売買されることもあり、木造は有利な材料となる。今は都市部で大中規模のビルの木造化が進められているが、近い将来地方都市も木造のビルが建設されるだろうとお話がありました。我々も将来に備え新商品の開発や供給体制を確立しなければと思いました。

今回の研修旅行は行程がハードであったので、次回開催する場合は、少しゆとりを持って、より実りある研修をしたいと考えています。皆様で視察したい箇所の希望等がありましたらお知らせください。

☆お知らせ

○令和六年『初市』（大分県木青連協賛）

一月十五日（月）、今年の初市も大分県木青連合会の協賛を頂き開催いたします。多数のご出荷、お買い上げよろしくお願いたします。